

青年の地域意識と集団活動

—鳥取県青年の地域意識調査の結果から—

生田 周二*・前田 昇**

Youth's Consciousness of Local Community and the Experience of Group Activities
—from the Results of the Survey on the Consciousness of Local Community among the Youth and the Members of the Youth Union in Tottori Prefecture—

IKUTA Shuji, MAEDA Noboru

はじめに

現代の青年たちは、特に60年代の高度経済成長以降、大量消費から他品種選択的消費への変化はあるものの、消費が煽られる生活、すなわち消費社会の中で世代性を有しており、当然、自我形成に大きな影響を及ぼしている。また、そうした世代性を有する青年にとって、学習・教育のあり方、参加のあり方も「成人になる」上で、大きな意味を持っている。

今日の青年の課題は、消費社会の中で、単に〈モノ〉の消費・所有によって得られる差異化=「個性化」を超えて、社会や集団とコミットしながら、自分なりの情報選択能力を身につけ、自立した個人として、「消費」社会を対象化することによる個性化をどのように実現するのかわかるといえる。つまり、「消費」社会との関わり、「学習」意欲・「学習」歴との関わり、各種レベルでの社会「参加」経験との関わり、「自立」及び自我形成との関わりという4つの問題の相互関連が問われているといえる。

以上から、キーワードとして「消費」「学習」「参加」「自立」が抽出でき、中でも「学習」「参加」「自立」については、次のように指摘できる。「学習」、それに関わる学校歴・学習経験歴は、進路形成に大きな影響を持つとともに、人間の意識構造の認知的側面(cognitive aspect)を形成する。ここでは「学習」的側面としておく。「参加」に関わる充実体験、地域活動経験、自然体験などは社会性や意欲を育むとともに、意識構造の情動的側面(affective aspect)を形作るといえ、「参加」経験的

側面と表しておく。「自立」については、彼らの現在の興味・関心、余暇活用のスタイル、社会観・人生観、地域意識など、外界と自己との関係性を評価し、行動化への指針を導き出す評価的側面(evaluative aspect)²⁾を多分に有しており、ここでは「自立」的側面というよりも、「評価」的側面と表現したほうが適当であろう。

以上の文脈の中で、青年(18歳以上30歳未満)の地域意識を問題にする理由は、青年の活動の場として、主体性と活動の具体性が現われる重要な場として地域があり、青年の問題意識のあり様も地域社会のあり様と緊密な関係にあると思われるからである。この点について考察する際に、性別、年齢、職業、結婚・子どもの有無という属性のほか、上で指摘した「学習」的側面、「参加」経験的側面、「評価」的側面の3側面が重要であると考えられる。

従来の調査研究では、先に生田が「地域活性化と青年の役割に関する予備的考察—『鳥取県青年団員の意識動向に関する予備調査』から—」(『鳥取大学教育学部研究報告：教育科学』第34巻第2号 1992年12月)において指摘したように、地域活動経験と地域に対する意識との関わりが強さ、並びに青年団体活動の問題点の指摘はあるものの、3つの側面を十分吟味することなく、またそれらの関連について無媒介的に問うことが多く、さらに、青年を一般化して捉えるのが常道であったといえる。

今回の研究では、青年の主に高校卒業後のグループ・サークル経験の有無という要素を媒介することにより3側面の関連を考察するとともに、地域意識の所在と何が青年に求められるのかを検討する。グループ・サークル経験の有無を媒介変数として採用する根拠は、地域意識は、現在及び過去のグループ経験の有無無し、及び現在及び過去のグループ活動の内容との関連性が当然強く、

* 鳥取大学教育学部社会教育教室

** 鳥取県日吉津村教育委員会社会教育主事

キーワード：青年，地域意識，集団活動

それらと過去の成育過程における学校時代の充実感、地域活動経験などが大きな相関があり、また人生観にも大きな影響を与えていると考えられるからである。

なお、「学習」の側面は調査票との関係で独立して取り扱わず、フェース・シートに含めた。

第1章 調査の目的・方法

鳥取県連合青年団と生田とが中心となって結成した「鳥取県青年問題研究会」は、「地域活性化と青年の役割に関する研究—青年団の将来像を探る—」を研究テーマとして、1992年4月から約2年間の調査・研究活動を行なうことになった。

調査目的は、「地域における青年の現状と問題点を把握し、地域活性化と青年の果たす役割について考察するとともに、地域における青年団体活動の今後のあり方について示唆となる資料を提供すること」である。青年の社会参加、高齢化社会における青年の役割の増大という観点から考えても、地域における青年の現状を分析することは重要である。

特に、青年団活動の衰退の要因について、青年団を取り巻く外在的な要因（職業の多様化、青年の興味・関心の多様化など）を探ることとともに、内在的に青年団の中からその要因（学校歴との関わり、団体活動経験、主体的取り組みへの意欲と行動力など）を追究し、青年団員個々の学校歴、職場、家庭生活、地域との関わり、興味関心、人生観・社会観など、多角的に考察する。

以上の目的実現のため、鳥取県内の青年に対する意識調査、鳥取県青年団の団員への意識調査、青年団事業の実態分析、先進地域の青年団活動との比較などを実施する。

本論文では、その内、鳥取県内の青年に対する意識調査、及び鳥取県青年団の団員への意識調査を中心に扱う。この2種類の調査の調査目的・対象等は以下の通りである。

〈「青年の地域意識に関する調査」〉

- 1) 調査目的：鳥取県内の18歳から29歳までの青年に対して、地域の生活を豊かにするために青年が果たす役割について中心的に問う。
- 2) 調査対象：対象人口78,097人（16,003（18-19歳）+30,367（20-24歳）+31,727（25-29歳）：1991年10月1日現在推計人口より）の約1%強の1,000人を市町村の青年人口と年齢を考慮して層化無作為抽出する。

対象市町村は、市部から1市、岩美郡から1町村、八頭郡から2町村、気高郡から1町、東伯郡から2町村、西伯郡から2町村、日野郡から1町村の計10市町村

東部：国府町、用瀬町、若桜町、青谷町

中部：倉吉市、三朝町、赤碕町

西部：岸本町、澁江町、日南町

3) 調査方法：基本的に、青年団員による配付・回収の留置法。

4) 調査期間：1992年7月～8月

〈「青年団員の意識動向に関する調査」〉

1) 調査目的：青年団員全員に対して、青年団の活動と今後の展望について問う。

2) 調査対象：全青年団員（約900人）

3) 調査期間：1992年7月～8月

4) 調査方法：基本的に、単位団での例会の際の配付記入、又は留置法。

〈調査票回収状況と集計分析上の操作について〉

「青年の地域意識に関する調査」（以下「青年調査」と略す。）は、当初予定していた西部（赤碕、岸本、日南）の取り組みの遅れ・未実施のため、これら3町を未実施地域としてサンプル数からはずした。その結果、サンプル数は805、回収数は519（一般青年462、青年団員57）、回収率は64.5%、一般青年のみの回収率は57.4%となり、当初予定していた鳥取県全域の青年意識調査というよりは、鳥取県東中部在住青年を主たる対象とした青年意識調査となった。

また、「青年調査」と「青年団員の意識動向に関する調査」（以下「団員調査」と略す。）には共通する項目（フェースシート8項目、一般質問21項目）が多いという理由と、「青年調査」の中に青年団員数が多いという二つの理由から、青年団員のケースを「団員調査」に含めて検討し、一般青年との相違をより鮮明にした。これによって「団員調査」の回収数は、「団員調査」回収分272+「青年調査」青年団員数分57=329、回収率は、約40%となる。

さらに、「青年調査」の間22「あなたは、青年団以外の団体やグループ・サークル活動に参加した経験がありますか。（一つに○）」の選択肢「1. いま参加している」（99名）、「2. 前に参加していた」（77名）を合わせて「グループ経験者」（176名）、「3. 参加したことがない」（272名）を「グループ未経験者」としてそれぞれコードした。この2つに青年団員を加えた3つの集団、すなわち青年団員（329名）、グループ経験者（176名）、グループ

未経験者(272名)と他の質問項目とのクロス集計を中心に用い、調査結果の検討をすすめる。

なお、表に付している「*」「**」は有意水準を示し、「*」は5%、「**」は1%をそれぞれ示している。

第2章 集計結果(1):主にグループ活動経験からの検討

〈フェース・シート〉

- 1) 青年団員の3分の2が男性である。(表2-1)
- 2) 平均年齢は青年団員23.6歳、グループ経験者24.2歳、グループ未経験者23.4歳。グループ経験者に20歳代後半が比較的多い。また、青年団員の年齢構成に男女差が大きい。つまり、男性に26歳以上が35%もいるのに対して、女性では13%に過ぎない。(表2-2-1~表2-2-2)
- 3) 学歴は、青年団員とグループ未経験者に高卒が多く、グループ経験者に大学短大卒が多い。しかし、性差があり、男性にはグループ間に顕著な傾向は見られないが、女性にグループ間での有意差が見られ、グループ経験者の4割が大学・短大卒である。(表2-3-1~表2-3-2)
- 4) 結婚・子どもの有無は、グループ経験者・グループ未経験者に「結婚・子ども有り」が多く、青年団員に「結婚していない」が多い。(表2-4)
- 5) 農家については、青年団員の6割近くが家が農家である。グループ経験者・グループ未経験者では約半数。(表2-5)
- 6) 職業は、青年団員・グループ経験者に公務員が多く、特に青年団員は農協等団体勤務を合わせると、31.6%が地域に関わりある職に就いている。しかしこれにも性差があり、男性に顕著である。また、主婦の74%がグループ活動未経験という特徴がある。(表2-6-1~表2-6-2)

なお、職業についての質問項目(手取り収入、勤務形態、仕事に就いた理由、仕事への満足、仕事への不満の内容、転職願望)については、グループ所属の有無との相関は見られない。

- 7) 居住経験は、Uターンが青年団員の3割に達しているが、他地域からの移住者の比率は低い。(表2-7)

Uターン(他の地域に出て、戻ってきた)の理由は、

青年団員	：「家を継ぐ」30.3%、「家庭の都合」24.7%、「その他」19.1%、
グループ経験者	：「家庭の都合」25.6%、「こちらに良い仕事があった」25.6%、「望郷」20.9%、
グループ未経験者	：「望郷」25.9%、「家庭の都合」

20.4%、「なんとなく」20.4%の順。青年団員に、「家」意識の強さがうかがわれる。

1. 「参加」経験的側面

〈充実体験について〉

- 1) 充実体験(「自分もやればできるんだ」「やった!」と思えるような体験)は、中学(表2-8-1)・高校(表2-8-2)時代とも、グループ未経験者に「そういう体験はない」が有意に多い。青年団員とグループ経験者はほぼ同傾向である。

- 2) 充実体験：中学の場面としては、

青年団員	：「部活」55.8%、「学校行事」26.2%、「友達との付き合い」18.4%、「授業」15.5%、
グループ経験者	：「部活」62.3%、「学校行事」27.0%、「授業」25.4%、「生徒会活動」18.0%、「友達との付き合い」18.0%、
グループ未経験者	：「部活」69.7%、「授業」24.6%、「学校行事」24.6%、「友達との付き合い」19.0%、の順。

青年団員は「部活」「授業」がそれぞれ低い。一方、グループ経験者に「生徒会」(青年団員6.3%、グループ未経験者7.0%)が多い。

- 3) 充実体験：高校の場面として、2割以上は、

青年団員	：「部活」55.1%、「学校行事」33.0%、「友達との付き合い」24.2%、
グループ経験者	：「部活」59.7%、「学校行事」30.2%、「友達との付き合い」27.3%、「授業」24.5%、
グループ未経験者	：「部活」41.8%、「友達との付き合い」35.6%、「授業」30.8%、「学校行事」29.5%、「趣味や遊び」21.2%、である。

青年団員は「授業」(17.2%)が低い。また、青年団員・グループ経験者は「学校外での行事・活動」(青年団員12.8%、グループ経験者12.9%、グループ未経験者3.4%)が高い。

以上の点は、地域活動経験と相関があり、〈地域社会について〉の項目で検討する。

- 4) 充実体験は、学歴との相関が見られ、短大・大学経験者ほど充実体験を多く持っている傾向が示されている。(表2-9-1~表2-9-2)

表2-1 性別

性別	グループ加入経験			計
	青年団員	グループ経験	グループ未経験	
男	221 67.4%	79 44.9%	118 43.5%	418 53.9%
女	107 32.6%	97 55.1%	153 56.5%	357 46.1%

表2-2-1 年齢別

年齢	グループ加入経験			計
	青年団員	グループ経験	グループ未経験	
18歳～21歳	98 29.9%	41 23.3%	87 32.1%	226 29.2%
22歳～25歳	139 42.4%	64 36.4%	99 36.5%	302 39.0%
26歳～29歳	74 22.6%	71 40.3%	84 31.0%	229 29.5%
30歳以上	17 5.2%	0 .0%	1 .4%	18 2.3%

表2-2-2 性別に見た年齢別構成

性別・年齢	グループ加入経験			計
	青年団員	グループ経験	グループ未経験	
男				
18歳～21歳	56 25.5%	17 21.5%	40 33.9%	113 27.1%
22歳～25歳	87 39.5%	25 31.6%	42 35.6%	154 36.9%
26歳～29歳	61 27.7%	37 46.8%	35 29.7%	133 31.9%
30歳以上	16 7.3%	0 .0%	1 .8%	17 4.1%
女				
18歳～21歳	42 39.3%	24 24.7%	46 30.3%	112 31.5%
22歳～25歳	51 47.7%	39 40.2%	57 37.5%	147 41.3%
26歳～29歳	13 12.1%	34 35.1%	49 32.2%	96 27.0%
30歳以上	1 .9%	0 .0%	0 .0%	1 .3%

表2-3-1 学歴構成

学歴	グループ加入経験			計
	青年団員	グループ経験	グループ未経験	
中学校	4 1.2%	2 1.2%	7 2.6%	13 1.7%
高校	225 69.2%	101 58.4%	188 69.6%	514 66.9%
高専	3 .9%	5 2.9%	7 2.6%	15 2.0%
短期大学	27 8.3%	27 15.6%	24 8.9%	78 10.2%
大学	28 8.6%	22 12.7%	17 6.3%	67 8.7%
専修大学	32 9.8%	15 8.7%	23 8.5%	70 9.1%
職業訓練校	4 1.2%	0 .0%	2 .7%	6 .8%
その他	2 .6%	1 .6%	2 .7%	5 .7%

表2-3-2 性別にみた学歴構成

性別・学歴	グループ加入経験			計
	青年団員	グループ経験	グループ未経験	
男				
中学・職訓・他	9 4.1%	1 1.3%	8 6.8%	18 4.3%
高校	161 73.5%	56 71.8%	90 76.9%	307 74.2%
高専・専修学校	16 7.3%	10 12.8%	6 5.1%	32 7.7%
短大・大学	33 15.1%	11 14.1%	13 11.1%	57 13.8%
女				
中学・職訓・他	1 1.0%	2 2.1%	3 2.0%	6 1.7%
高校	64 61.0%	45 47.4%	98 64.5%	207 58.8%
高専・専修学校	19 18.1%	10 10.5%	23 15.1%	52 14.8%
短大・大学	21 20.0%	38 40.0%	28 18.4%	87 24.7%

表2-4 結婚・子どもの有無

配偶者・子ども	グループ加入経験			計
	青年団員	グループ経験	グループ未経験	
結婚、子ども有り	17 5.2%	27 15.3%	44 16.2%	88 11.3%
結婚、子ども無し	13 4.0%	8 4.5%	12 4.4%	33 4.3%
結婚していない	297 90.5%	141 80.1%	215 79.0%	653 84.1%
その他	1 .3%	0 .0%	1 .4%	2 .3%

表2-5 農家・非農家の別

農家	グループ加入経験			計
	青年団員	グループ経験	グループ未経験	
専業農家	31 9.6%	6 3.6%	17 6.3%	54 7.1%
第1種兼業農家	19 5.9%	10 5.9%	15 5.6%	44 5.8%
第2種兼業農家	141 43.5%	62 36.7%	103 38.3%	306 40.2%
農家ではない	133 41.0%	91 53.8%	134 49.8%	358 47.0%

表2-6-1 職業別構成

職業	グループ加入経験			計
	青年団員	グループ経験	グループ未経験	
専門職	25 7.6%	21 12.3%	23 8.5%	69 9.0%
公務員	69 21.0%	30 17.5%	14 5.2%	113 14.7%
農協等団体勤務	35 10.6%	12 7.0%	19 7.0%	66 8.6%
会社員	132 40.1%	72 42.1%	123 45.6%	327 42.5%
店員	7 2.1%	3 1.8%	11 4.1%	21 2.7%
技能職	31 9.4%	12 7.0%	24 8.9%	67 8.7%
農林漁業	9 2.7%	0 .0%	1 .4%	10 1.3%
商工・サービス業自営	7 2.1%	6 3.5%	9 3.3%	22 2.9%
主婦	0 .0%	5 2.9%	14 5.2%	19 2.5%
学生	4 1.2%	7 4.1%	12 4.4%	23 3.0%
失業中・無職	2 .6%	0 .0%	6 2.2%	8 1.0%
その他	8 2.4%	3 1.8%	14 5.2%	25 3.2%

〈地域社会での活動経験〉

1) 地域活動（子ども会、ジュニアリーダー、その他の青少年団体活動、ボランティア活動など）については、小学生（表2-10-1）・中学生（表2-10-2）時代では、グループ経験者、青年団員、グループ未経験者の順に、地域活動に積極的である。高校生（表2-10-3）時代については、小・中と同様な傾向があるが、青年団員に積極的参加者が相対的に多くなる。

以上のことから、小・中・高での地域活動経験は、青年期のグループ活動と相関関係が強いと言える。

2) しかし、また表2-10-4から表2-10-6に窺えるように、学歴との相関が見られ、短大・大学経験者ほど地域活動

経験を多く持っている傾向が示されている。

3) また、学校での充実体験との相関も見られ、充実体験を有している者ほど、地域活動に積極的に参加している。（表2-11-1～表2-11-3）

4) この様子を、「地域活動：高校生」を用いて検討すると、「他の団体活動への参加」とのクロス集計（表2-12-1）では、地域活動の積極的参加者の3分の2が集団活動を経験しているのに対して、不参加者は4割強しか集団経験がない。

「充実体験：高校」とのクロス集計（表2-12-2）では、地域活動の積極的参加者の9割近くが何らかの充実体験を有し、強く持っている者は46%に昇るのに対して、不

表2-6-2 性別にみた職業構成

性別・職業	グループ加入経験			計
	青年団員	グループ経験	グループ未経験	
男				
専門職	6 2.7%	7 9.1%	1 .9%	14 3.4%
公務員	57 25.8%	16 20.8%	8 6.8%	81 19.5%
農協等団体勤務	27 12.2%	5 6.5%	10 8.5%	42 10.1%
会社員	78 35.3%	33 42.9%	58 49.6%	169 40.7%
店員・技能職	32 14.5%	10 13.0%	24 20.5%	66 15.9%
農業・自営	16 7.2%	5 6.5%	5 4.3%	26 6.3%
主婦・学生等	5 2.3%	1 1.3%	11 9.4%	17 4.1%
女				
専門職	18 16.8%	14 14.9%	22 14.5%	54 15.3%
公務員	12 11.2%	14 14.9%	6 3.9%	32 9.1%
農協等団体勤務	8 7.5%	7 7.4%	9 5.9%	24 6.8%
会社員	54 50.5%	39 41.5%	65 42.8%	158 44.8%
店員・技能職	6 5.6%	5 5.3%	11 7.2%	22 6.2%
農業・自営	0 .0%	1 1.1%	5 3.3%	6 1.7%
主婦・学生等	9 8.4%	14 14.9%	34 22.4%	57 16.1%

**

*

表2-7 居住経験

居住経験	グループ加入経験			計
	青年団員	グループ経験	グループ未経験	
ずっと住んでいる	209 65.9%	104 61.5%	182 67.4%	495 65.5%
一度他の地域に住んで戻ってきた	96 30.3%	44 26.0%	57 21.1%	197 26.1%
他の地域に住んでいた	12 3.8%	21 12.4%	31 11.5%	64 8.5%

**

表2-8-1 充実体験の有無：中学

充実体験：中学	グループ加入経験			計
	青年団員	グループ経験	グループ未経験	
強くある	54 17.5%	40 23.3%	23 8.9%	117 15.8%
少しはある	156 50.6%	86 50.0%	121 46.7%	363 49.1%
そういう体験はない	98 31.8%	46 26.7%	115 44.4%	259 35.0%

**

表2-8-2 充実体験の有無：高校

充実体験：高校	グループ加入経験			計
	青年団員	グループ経験	グループ未経験	
強くある	97 31.7%	49 28.3%	37 14.1%	183 24.7%
少しはある	140 45.8%	96 55.5%	112 42.7%	348 47.0%
そういう体験はない	69 22.5%	28 16.2%	113 43.1%	210 28.3%

**

表2-9-1 充実体験の有無：中学と学歴とのクロス集計

充実体験：中学	学 歴			
	中学・職訓・他	高 校	高専・専修学校	短大・大学
強くある	3 12.5%	57 11.5%	18 22.2%	39 28.1%
少しはある	14 58.3%	244 49.3%	43 53.1%	63 45.3%
そういう体験はない	7 29.2%	194 39.2%	20 24.7%	37 26.6%

**

表2-9-2 充実体験の有無：高校と学歴とのクロス集計

充実体験：高校	学 歴			
	中学・職訓・他	高 校	高専・専修学校	短大・大学
強くある	6 35.3%	104 20.8%	23 28.0%	50 35.0%
少しはある	6 35.3%	240 48.1%	39 47.6%	65 45.5%
そういう体験はない	5 29.4%	155 31.1%	20 24.4%	28 19.6%

**

表2-10-1 地域活動経験：小学生

地域活動・小学生	グループ加入経験			計
	青年団員	グループ経験	グループ未経験	
積極的参加	86 28.0%	55 31.8%	53 20.6%	194 26.3%
消極的参加	98 31.9%	74 42.8%	87 33.9%	259 35.1%
不参加	123 40.1%	44 25.4%	117 45.5%	284 38.5%

**

表2-10-2 地域活動経験：中学生

地域活動・中学生	グループ加入経験			計
	青年団員	グループ経験	グループ未経験	
積極的参加	52 17.0%	35 20.6%	21 8.1%	108 14.7%
消極的参加	81 26.6%	59 34.7%	66 25.6%	206 28.1%
不参加	172 56.4%	76 44.7%	171 66.3%	419 57.2%

**

表2-10-3 地域活動経験：高校生

地域活動・高校生	グループ加入経験			計
	青年団員	グループ経験	グループ未経験	
積極的活動	39 12.8%	20 11.8%	11 4.2%	70 9.5%
消極的参加	22 7.2%	22 12.9%	17 6.5%	61 8.3%
不参加	243 79.9%	128 75.3%	232 89.2%	603 82.2%

**

表2-10-4 地域活動経験：小学生と学歴とのクロス集計

地域活動・小学生	グループ加入経験			計
	青年団員	グループ経験	グループ未経験	
積極的活動	8 33.3%	109 22.3%	24 30.8%	53 36.8%
消極的参加	5 20.8%	171 35.0%	30 38.5%	50 34.7%
不参加	11 45.8%	208 42.6%	24 30.8%	41 28.5%

**

表2-10-5 地域活動経験：中学生と学歴とのクロス集計

地域活動・中学生	学 歴			
	中学・職訓・他	高 校	高専・専修学校	短大・大学
積極的参加	2 8.3%	61 12.6%	18 23.1%	27 18.8%
消極的参加	8 33.3%	126 26.0%	26 33.3%	46 31.9%
不参加	14 58.3%	298 61.4%	34 43.6%	71 49.3%

**

表2-10-6 地域活動経験：高校生と学歴とのクロス集計

地域活動・高校生	学 歴			
	中学・職訓・他	高 校	高専・専修学校	短大・大学
積極的参加	1 4.8%	38 7.8%	13 16.7%	18 12.5%
消極的参加	1 4.8%	39 8.0%	10 12.8%	11 7.6%
不参加	19 90.5%	412 84.3%	55 70.5%	115 79.9%

*

参加者は7割弱しか充実体験を有しておらず、強く持っている者は22%に過ぎない。このように、地域活動積極的参加者の積極面が現われている。

「充実体験：高校の場面」とのクロス集計(表2-12-3)では、特に、「学校外での行事・活動」「学校行事」「生徒会活動」の選択肢で有意な差が見られ、積極的参加者の45%が「学校外での行事・活動」、38%が「学校行事」、18%が「生徒会活動」にそれぞれ充実体験を有している。

以上、充実体験(中・高)と地域活動経験(小・中・高)、そして最近の団体活動への参加経験との間には、相関が見られる。また、これらと学歴との関わりもどうかかわれ、今後の検討課題でもある。

5) 現在、参加している地域活動は、

青年団員 : 「青年団体活動」73.7%、「スポーツ・運動会」44.5%、「祭り」34.7%、「その他の地域行事」21.8%が2割以上、

グループ経験者 : 「スポーツ・運動会」43.7%、「祭り」20.1%が2割以上、

グループ未経験者 : 「考えていない」53.5%、「参加するものがない」26.0%、「スポーツ・運動会」14.0%の順。

「考えていない」「参加するものがない」は青年団員7.1%、3.6%(グループ経験者16.7%、15.5%)に過ぎない。また、1人平均青年団員は2.0個参加していると回答しているのに対して、グループ経験者1.1個、グループ未経験者0.3個と大きな差が出ている。この差は、次に見る地域認識の差となって現われてくる。

2. 「評価」的側面

〈興味・関心・余暇・悩みについて〉

1) 興味・関心の3割以上は、

青年団員 : 「スポーツ」39.2%、「自動車・オートバイ」37.9%、「娯楽・レジャー」33.9%、「旅行」30.4%、

グループ経験者 : 「スポーツ」52.6%、「娯楽・レジャー」40.6%、「旅行」34.3%、

グループ未経験者 : 「娯楽・レジャー」33.3%、「スポーツ」31.9%。

青年団員に比較的多いのは「結婚」27.3%(グループ経験者25.1%、グループ未経験者17.4%)、「グループ活動」15.0%(グループ経験者5.1%、グループ未経験者1.1%)である。グループ未経験者に比較的多いのは「特にない」15.2%(青年団員5.0%、グループ経験者

3.4%)、「ファッションなどの流行」22.2%(青年団員13.2%、グループ経験者16.0%)などである。

2) 平日の自由時間の利用で、2割以上は、

青年団員 : 「テレビ」67.8%、「ドライブ」33.4%、「ごろ寝・休息」30.9%、「スポーツ」22.7%、

グループ経験者 : 「テレビ」69.0%、「友達のおしゃべり」28.2%、「ごろ寝・休息」24.1%、「スポーツ」24.1%、「ドライブ」23.6%、

グループ未経験者 : 「テレビ」73.9%、「ごろ寝・休息」33.3%、「ドライブ」27.3%、「友達のおしゃべり」23.1%、「漫画・週刊誌などを見る」20.1%。

青年団員には「グループ活動」16.7%(グループ経験者5.7%、グループ未経験者0%)が多く、「おしゃべり」16.4%、「子どもの相手・育児」3.8%が少ない。これには、青年団員の女性と既婚者の少なさが反映している。

3) 休日の利用は、「テレビ」5割近く、「ドライブ」3~4割、「ごろ寝・休息」2割代、「ショッピング」1~2割代である。

青年団には「グループ活動」(12.2%>グループ経験者4.6%>グループ未経験者0.4%)が多く、「おしゃべり」「ショッピング」「子どもの相手・育児」が少ない。これには、平日の自由時間同様、女性と既婚者の少なさが反映している。

4) 悩んで2割以上は、

青年団員 : 「金銭」40.3%、「将来」29.7%、「職業・職場」25.9%、「異性関係」25.6%、「結婚」21.7%、

グループ経験者 : 「将来」41.6%、「金銭」34.1%、「職業・職場」25.4%、「結婚」22.5%、「特にない」20.2%、

グループ未経験者 : 「特にない」33.1%、「金銭」33.1%、「将来」26.7%。

青年団員・グループ経験者には「特にない」(それぞれ17.3%、20.2%)が少なく、「職業・職場」がグループ未経験者(15.8%)より多い。青年団員には「異性関係」が高くなっているのが特徴的。性差が見られるのは、「金銭」(男45.5%>女24.9%)、「異性関係」(男21.5%>女15.0%)、「結婚」(男16.4%<女24.4%)である。

5) 親しい友人は、一般青年、青年団員とも約9~14%がいないと回答している。

6) 友人と知り合ったきっかけは、

青年団員 : 「学校」58.6%, 「青年団」33.6%, 「職場」31.3%,
 グループ経験者 : 「学校」63.3%, 「職場」37.4%,
 グループ未経験者 : 「学校」67.2%, 「職場」45.3%。
 青年団員・グループ経験者は「学校」「職場」が低くなる傾向があり, グループ経験者では「グループ活動」(13.7%)が高くなる。青年団員の場合, 「青年団」33.6%と回答しているように, 青年期にとって重要な人間関係の深化に大きな役割を果たしていると考えられる。

〈社会観・人生観〉

1) 生きがいは, 2割以上で多いのは,

青年団員 : 「スポーツ・趣味」48.9%, 「友人・仲間」37.7%, 「仕事」30.4%, 「団体・サークル活動」27.8%, 「社会のために役立つ」22.4%,
 グループ経験者 : 「スポーツ・趣味」53.4%, 「友人・仲間」39.1%, 「仕事」31.0%,
 グループ未経験者 : 「友人・仲間」40.0%, 「スポーツ・趣味」34.2%, 「仕事」24.2%, 「恋人」22.3%。

青年団員は「団体・サークル活動」(グループ経験者9.8%, グループ未経験者1.9%), 「社会のため」(グループ経験者17.8%, グループ未経験者9.6%)が高い。また, 「家族」8.0% (グループ経験者16.7%, グループ未経験者19.6%)が低い, この背景には青年団員には既婚者が少なく, 独身者が多いという点が働いている。

また, 性差が大きく, 顕著な項目は, 「スポーツ・趣味」(男55.1%>女32.7%), 「友人・仲間」(男33.8%<女44.0%), 「生きがいに感じることはない」(男7.2%<女12.8%)である。

2) 人生の目標は,

青年団員 : 「幸せな家庭」59.4%, 「人並みの生活」20.0%, 「職業人」19.4%, 「金持ち」17.1%,
 グループ経験者 : 「幸せな家庭」58.4%, 「人並みの生活」22.0%, 「職業人」17.9%, 「創造的な仕事」15.6%,
 グループ未経験者 : 「幸せな家庭」57.0%, 「人並みの生活」27.5%, 「金持ち」15.1%, 「職業人」12.1%の順。

青年団員とグループ経験者は「人並みの生活」が低く, 「職業人としてその道に精通」が高くなる傾向がある。

また, 性差が大きく, 顕著な項目は, 「幸せな家庭」(男

43.7%<女74.4%), 「職業人」(男22.0%>女10.2%), 「創造的な仕事」(男12.9%>女3.7%), 「金持ち」(男18.5%>女8.8%), 「人並みの生活」(男19.0%<女28.7%)である。

〈地域社会について〉

1) 地域の良い点は, 「自然環境」(89.8%), 「友人関係」(52.9%), 「人情」(46.6%)の順で共通しているが, 青年団員が1人平均3.4個良いと回答し全体的に肯定的評価がなされているのに対して, グループ経験者2.8個, グループ未経験者2.5個と低くなっている。

2) 地域の悪い点は, 「娯楽・レジャー施設」(83.7%), 「文化施設・ホール」(55.1%), 「教育や就労の機会」(40.5%)の順で共通しているが, グループ未経験者が1人平均2.5個, グループ経験者1人平均2.9個それぞれ悪いと回答しているのに対して, 青年団員は2.7個であり, 「青年に対する理解度」で青年団員が高い(41.6%>グループ経験者37.8%>グループ未経験者30.0%)のを除くとほぼ同じ評価がなされている。良い点と合わせて考えると, 青年団員の地域に対する肯定的評価が見られる。

3) 定住意識は, 青年団員は「ずっと住んでいたい」41.7%と高くなっている。グループ経験者とグループ未経験者は同傾向である。しかし, この傾向は一般的に男性に強く, また, 男性の中では青年団員の定住意識の強さが一定見られるが, 女性ではほとんど見られない。このことは, 女性が, 結婚により他の地域に移る可能性の高さを自覚していることの反映と思われる。(表2-13-1~表2-13-2)

4) 青年として参加すべきだと考えている地域活動は,
 青年団員 : 「青年団体活動」62.9%, 「祭り」56.5%, 「スポーツ・運動会」53.7%, 「奉仕・ボランティア」52.4%が5割以上,
 グループ経験者 : 「スポーツ・運動会」48.5%, 「祭り」45.7%, 「奉仕・ボランティア」45.1%が4割台,
 グループ未経験者 : 「祭り」39.8%, 「考えていない」38.7%が3割台。

「考えていない」, 「参加するものがない」(グループ未経験者8.4%)は青年団員ではそれぞれ9.6%, 3.8%(グループ経験者18.5%, 5.2%)に過ぎない。1人平均青年団員は2.8個参加すべきと回答しているのに対して, グループ経験者は2.2個, グループ未経験者は1.4個と差が

表2-11-1 地域活動経験：小学生と充実体験の有無：中学とのクロス集計

地域活動・小学生	充実体験：中学			計
	強くある	少しはある	そういう体験はない	
積極的参加	59 50.9%	89 25.3%	37 14.7%	185 25.7%
消極的参加	32 27.6%	151 42.9%	74 29.5%	257 35.7%
不参加	25 21.6%	112 31.8%	140 55.8%	277 38.5%

**

表2-11-2 地域活動経験：中学生と充実体験の有無：中学生とのクロス集計

地域活動・中学生	充実体験：中学			計
	強くある	少しはある	そういう体験はない	
積極的参加	38 33.3%	50 14.2%	18 7.2%	106 14.8%
消極的参加	32 28.1%	119 33.9%	48 19.2%	199 27.8%
不参加	44 38.6%	182 51.9%	184 73.6%	410 57.3%

**

表2-11-3 地域活動経験：高校生と充実体験の有無：高校生とのクロス集計

地域活動・高校生	充実体験：高校			計
	強くある	少しはある	そういう体験はない	
積極的参加	32 18.2%	30 8.9%	8 3.9%	70 9.7%
消極的参加	13 7.4%	32 9.5%	14 6.8%	59 8.2%
不参加	131 74.4%	274 81.5%	184 89.3%	589 82.0%

**

表2-12-1 団体活動への参加と地域活動経験：高校生とのクロス集計

他の団体活動への参加	地域活動・高校生			計
	積極的参加	消極的参加	不参加	
入っている	31 44.9%	19 31.1%	199 34.0%	249 34.8%
以前は入っていた	15 21.7%	15 24.6%	55 9.4%	85 11.9%
入っていない	23 33.3%	27 44.3%	331 56.6%	381 53.3%

**

表2-12-2 充実体験の有無：高校と地域活動経験：高校生とのクロス集計

充実体験：高校	地域活動・高校生			計
	積極的参加	消極的参加	不参加	
強くある	32 45.7%	13 22.0%	131 22.2%	176 24.5%
少しはある	30 42.9%	32 54.2%	274 46.5%	336 46.8%
そういう体験はない	8 11.4%	14 23.7%	184 31.2%	206 28.7%

**

表2-12-3 充実体験の有無：高校の場面と地域活動経験：高校生とのクロス集計

充実体験の場面	地域活動・高校生			計
	積極的参加	消極的参加	不参加	
授業	15 25.0%	7 15.9%	95 23.9%	117 23.3%
学校行事	23 38.3%	13 29.5%	118 29.6%	154 30.7%
部活動	34 56.7%	26 59.1%	204 51.3%	264 52.6%
生徒会活動	11 18.3%	1 2.3%	16 4.0%	28 5.6%
塾などでの勉強	0 .0%	0 .0%	0 .0%	0 .0%
友達との付き合い	11 18.3%	19 43.2%	114 28.6%	144 28.7%
趣味や遊び	8 13.3%	13 29.5%	59 14.8%	80 15.9%
学校外での行事・活動	27 45.0%	6 13.6%	18 4.5%	51 10.2%
特技・技能の習得	8 13.3%	3 6.8%	37 9.3%	48 9.6%
その他	0 .0%	2 4.5%	9 2.3%	11 2.2%

表2-13-1 定住意識

定住意識	グループ加入経験			計
	青年団員	グループ経験	グループ未経験	
ずっと住む	133 41.7%	48 27.7%	75 28.0%	256 33.7%
他の土地で住む	96 30.1%	65 37.6%	99 36.9%	260 34.2%
未確定	90 28.2%	60 34.7%	94 35.1%	244 32.1%

**

表2-13-2 性別にみた定住意識

性別・定住意識	グループ加入経験			計
	青年団員	グループ経験	グループ未経験	
男				
ずっと住む	104 49.1%	28 36.4%	40 34.2%	172 42.4%
他の土地で住む	54 25.5%	25 32.5%	36 30.8%	115 28.3%
未確定	54 25.5%	24 31.2%	41 35.0%	119 29.3%
女				
ずっと住む	28 26.4%	20 20.8%	34 22.7%	82 23.3%
他の土地で住む	42 39.6%	40 41.7%	63 42.0%	145 41.2%
未確定	36 34.0%	36 37.5%	53 35.3%	125 35.5%

*

表2-14-1 グループ活動への障害

参加できない理由	グループ加入経験		計
	グループ経験	グループ未経験	
時間がない	84 55.3%	145 54.9%	229 55.0%
お金がない	26 17.1%	20 7.6%	46 11.1%
参加すると束縛される	31 20.4%	59 22.3%	90 21.6%
人見知りする	17 11.2%	34 12.9%	51 12.3%
能力がない	12 7.9%	17 6.4%	29 7.0%
職場の理解ない	3 2.0%	5 1.9%	8 1.9%
学校の理解がない	0 .0%	1 .4%	1 .2%
家族の理解がない	7 4.6%	1 .4%	8 1.9%
世間体が悪い	2 1.3%	1 .4%	3 .7%
疲れて無理	30 19.7%	29 11.0%	59 14.2%
交通の便が悪い	14 9.2%	5 1.9%	19 4.6%
自分の関心活動	20 13.2%	63 23.9%	83 20.0%
以前おもしろくなかった	2 1.3%	8 3.0%	10 2.4%
参加する気がない	13 8.6%	80 30.3%	93 22.4%
その他	8 5.3%	11 4.2%	19 4.6%
計	152 100.0%	264 100.0%	416 100.0%

大きくなる。

5) 青年として期待されていることで2割以上のものは、

青年団員 : 「地域の伝統・文化を受け継ぐ」55.0%, 「奉仕活動」45.0%, 「職場における責任感」32.0%, 「年寄りを大切にする」25.0%,

グループ経験者 : 「地域の伝統・文化を受け継ぐ」43.7%, 「奉仕活動」36.2%, 「職場における責任感」30.5%, 「年寄りを大切にする」29.9%, 「公衆・市民道徳を守る」24.7%,

グループ未経験者 : 「地域の伝統・文化を受け継ぐ」34.8%, 「特にない」30.7%, 「奉仕活動」27.3%。

グループ未経験者に多い「特にない」は、青年団員では9.7%, グループ経験者では12.1%に過ぎない。また、青年団員とグループ経験者は1人平均2.4個期待されていると回答しているのに対して、グループ未経験者では1.7個となっている。

6) 地域の課題で2割以上は、

青年団員 : 「過疎」37.2%, 「高齢者の介護」36.9%, 「働き場所」32.9%, 「地域の後継者の育成」29.9%, 「嫁・婿ききん」20.5%,

グループ経験者 : 「働き場所」35.3%, 「高齢者の介護」32.4%, 「過疎」31.8%, 「地域の後継者の育成」26.6%, 「交通網の整備」23.7%, 「生活環境の拡充」22.5%,

グループ未経験者 : 「過疎」29.1%, 「働き場所」28.0%, 「高齢者の介護」24.1%, 「交通網の整備」23.8%, 「自然環境の保護」21.5%。

「わからない」はグループ未経験者18.0%に達し、グループ経験者6.9%, 青年団員5.7%とは大きな差がある。

また、青年団員の特徴は、「人権に関わる問題」が16.1%と、グループ経験者8.7%, グループ未経験者5.4%と比べて高くなっている点である。この点は、後で見ると、青年団の役職別でも大きな差となって現われている。

3. グループ活動とその障害

1) グループ経験者のグループ活動経験の内容は、「スポーツ」67.2%, 「趣味・教養」24.7%, 「社会奉仕活動」18.4%が主なものである。性差が見られ、

男性 : 「スポーツ」75.6%, 「趣味・教養」15.4%, 「社会奉仕活動」10.3%

女性 : 「スポーツ」60.4%, 「趣味・教養」32.3%, 「社会奉仕活動」25.0%

というように、男性はスポーツ中心で、それに比べ女性の場合多様化していると言える。

2) グループ未経験者にとって、グループ活動への障害は、「時間がない」54.9% (グループ経験者55.3%) が最大の理由になっている。しかし、平均的に見ると、平日の自由時間は、「ほとんどない」が青年団員14.5%, グループ未経験者12.4% (グループ経験者5.8%), 平日の自由時間数の平均は青年団員4.1時間, グループ経験者3.7時間, グループ未経験者4.4時間, 休日数の平均は青年団員5.6日, グループ経験者5.8日, グループ未経験者6.4日となっているように、休日数, 自由時間数の物理的障害だけが未経験の根拠とはなりえない。つまり、非常に重い物理的障害を抱える層が存在することも考えられるが、それ以外の選択肢も重要である。たとえば、「参加する気持ちがない」30.3% (グループ経験者8.6%), 「自分の関心に合った活動がない」23.9% (グループ経験者13.2%), 「参加すると束縛される」22.3% (グループ経験者20.4%) などである。特に前二者は、グループ経験者と比べて格段に高い数値が出ている。(表2-14-1)

そこで、グループ活動への阻害要因として、「物理的・客観的条件」(時間, 金, 職場・学校・家族の理解, 世間体, 体力), 「性格・能力・関心」(人見知り, 能力, 関心に合った活動), 「束縛・楽しくない」(参加すると束縛される, 以前におもしろくなかった), 「参加する気がない」にそれぞれリコードした。職業とのクロスでは、「物理的・客観的条件」は農協等団体勤務で少なく、逆に農業・自営の全員がグループ活動に参加する条件にないと回答している。「参加する気がない」は店員・技能職で高く、公務員で低くなっている。(表2-14-2)

自由時間数(表2-14-3)で見ると、自由時間が多くなると「物理的・客観的条件」および「参加する気がない」が少なくなり、「性格・能力・関心」が高くなる傾向が出ている。この点は重要であり、自由時間のある人には、内面的な面での自己規制が働いているといえる。

4. 小括

1) 学歴や年齢層からみると、青年団員はグループ未経験者に近いものがあるが、職業的には、青年団員はグループ経験者と近似した傾向にあり、専門職、公務員の比率が高く、特に青年団員の男性に地域の公的業務従事者が

比較的多く、Uターン青年の多さと「家」意識の高さも特徴的である。

2) 青年団員の特徴が出る項目は、「参加」経験的側面では、学校生活における「充実体験」の高さ（グループ経験者と同傾向）とその内容における「授業」の低さ、小・中・高での地域活動経験がグループ経験者に次いで多く、現実の地域活動参加も1人平均2種類の取り組みに関わっている。「評価」的側面では、「生きがい」における「社会のために役立つ」「団体・サークル活動」が多く、地域を相対的に肯定的評価する傾向が見られ、地域の課題についても「わからない」がグループ経験者同様少なく、「地域の後継者の育成・確保」という観点での問題意識がグループ経験者と同じく比較的高い。

3) グループ経験者は、「参加」経験的側面では、学校における充実体験が、「強くある」+「少しはある」を加えると、中学73.3%、高校83.8%になり、その内容も中学では「授業」「生徒会活動」が高く、高校でも「授業」「学校外での行事・活動」が高いように、学校適応がうまくいった層が多いように思われる。また、地域活動にも積極的な層が多い。そうしたこともあり、グループ経験者は、地域意識や参加も青年団員と近似した傾向にある。

4) グループ未経験者は、青年団員やグループ経験者に比較して、専門職・公務員が少なく、主婦、学生、失業中・無職、その他が多くなっている。また、こうした傾向が反映して、自由時間数や休日数は比較的多くなっているが、標準偏差も大きく、分散しているといえる。

5) グループ未経験者は、「参加」経験的側面でも、充実体験が「ない」が中・高とも4割以上に達し、地域活動経験も不参加者の割合がグループ経験者と比較すると15~20ポイント以上多い。現在の地域活動についても「考えていない」「参加するものがない」を合わせると90%に昇る。

こうした点が、「評価」的側面にも反映している。興味・関心が「特にない」15%、悩みが「特にない」33%、青年として参加すべき地域活動について「考えていない」39%、青年として期待されていることについて「特にない」31%、地域の課題について「わからない」18%というように、思考停止とでも称すべきレベルの者が多い。

6) グループ未経験者のグループ活動への阻害要因は、「時間がなく、参加する気もない」「時間もなく、束縛されたりするのが嫌だ」「時間もないが、自分に合った活動がない」「時間はあるが、人見知りしたり、自分に合った活動がない」「時間はあるが、束縛されたりするのが嫌だ」「時間はあるが、参加する気がない」という6つの層が

考えられ、それらに影響を与えている要因として、学歴、学校での充実体験、地域活動経験、年齢、現在の職業あるいは立場、余暇などが考えられる。こうした相関および類型化については今後の検討課題である。

7) 以上の検討から、青年の地域意識、そして青年の意識構造を考える際に、青年一般を問題にするのではなく、グループ活動経験で青年を分類し、彼らの属性、学校歴、「参加」経験的側面、「評価」的側面との連関を問うことが重要な観点であることが示された。

(以上、生田が主に執筆。)

第3章 集計結果(2)：青年団員の意識と活動

青年団員の意識について一般青年（グループ経験者・グループ未経験者）との対比から分析してきたが、さらに、現在の青年団員の活動・組織に対する意識に関する調査結果を中心に、主に男女別と現在青年団内でついている役職別に分析した。

<フェース・シート>

1) 一般団員が51.1%と過半数を占め、役員構成はピラミッド型を形成し、男女別でも特に偏りはない。年齢的にも、上位団体の役員になるほど高くなっているが極端ではない。(表3-1)

2) 団歴については、(上位)役員になるほど長い。男女別でみれば、男性は5年以上が33%いるのに、女性の90%は5年未満であり、青年団への参加について性差がみられる。(表3-2)

3) 学歴と役職の関連性は特に認められないが、職業については、県郡団役員には公務員(36.4%、単位団役員15.6%、一般団員17.9%)が他に比べて多い。

<興味・関心・悩み>

1) 自分自身の悩みについては、県郡団役員が「結婚」(43.3%、単位団役員17.6%、一般団員22.0%)、「身体」(23.3%、単位団役員16.5%、一般団員8.7%)を多く答え、「特にない」(3.3%、単位団役員8.8%、一般団員19.7%)が少ない。これは、青年団員は9割強が未婚なので、年齢的な面のあらわれだろう。

悩みを相談できる人との出会いのきっかけでは、(上位)役員になるほど、「青年団の中で」(県郡団役員70.4%、単位団役員43.8%、一般団員18.6%)と言う者が多く、「学校で」(県郡団役員40.7%、単位団役員51.3%、一般団員56.9%)、「職場で」(県郡団役員

表2-14-2 グループ活動への障害と職業とのクロス集計

参加できない理由	職				業			
	専門職	公務員	農協等 団体勤務	会社員	店員	技能職	農林漁業	商工・ サービス 業自営
物理的・客観的条件	16 69.6%	9 64.3%	7 43.8%	77 66.4%	7 70.0%	13 56.5%	1 100.0%	9 100.0%
性格・能力・関心	6 26.1%	5 35.7%	9 56.3%	47 40.5%	2 20.0%	9 39.1%	1 100.0%	2 22.2%
束縛・楽しくない	6 26.1%	5 35.7%	3 18.8%	29 25.0%	3 30.0%	6 26.1%	0 .0%	1 11.1%
参加する気がない	6 26.1%	2 14.3%	4 25.0%	38 32.8%	3 30.0%	11 47.8%	0 .0%	2 22.2%
計	23 100.0%	14 100.0%	16 100.0%	116 100.0%	10 100.0%	23 100.0%	1 100.0%	9 100.0%

参加できない理由	職業				計
	主婦	学生	失業中・ 無職	その他	
物理的・客観的条件	10 71.4%	9 81.8%	1 16.7%	7 58.3%	166 65.1%
性格・能力・関心	5 35.7%	5 45.5%	4 66.7%	4 33.3%	99 38.8%
束縛・楽しくない	1 7.1%	3 27.3%	3 50.0%	4 33.3%	64 25.1%
参加する気がない	4 28.6%	1 9.1%	2 33.3%	5 41.7%	78 30.6%
計	14 100.0%	11 100.0%	6 100.0%	12 100.0%	255 100.0%

表2-14-3 グループ活動への障害と自由時間数とのクロス集計

参加できない理由	平日の自由時間数			計
	1～2時間	3～4時間	5時間以上	
物理的・客観的条件	33 75.0%	51 65.4%	48 54.5%	132 62.9%
性格・能力・関心	11 25.0%	32 41.0%	46 52.3%	89 42.4%
束縛・楽しくない	12 27.3%	23 29.5%	24 27.3%	59 28.1%
参加する気がない	18 40.9%	25 32.1%	18 20.5%	61 29.0%
計	44 100.0%	78 100.0%	88 100.0%	210 100.0%

18.5%，単位団役員28.8%，一般団員30.4%）が減少する。

2) 興味・関心では、(上位) 役員になるほど「自動車・オートバイ」(県郡団役員23.3%，単位団役員32.6%，一般団員40.5%)、「スポーツ」(県郡団役員23.3%，単位団役員33.7%，一般団員45.8%)がおち、「結婚」(県郡団役員50.0%，単位団役員27.2%，一般団員25.2%)、「異性」(県郡団役員33.3%，単位団役員26.1%，一般団員19.1%)が増える。さらに「グループ・サークル活動」(県郡団役員30.0%，単位団役員27.2%，一般団員7.6%)、「自分の職業」(県郡団役員20.0%，単位団役員12.0%，一般団員9.9%)、「政治・社会問題」(県郡団役

員20.0%，単位団役員10.9%，一般団員5.3%)がふえる。

〈社会観・人生観〉

1) どんな時に生きがいを感じるか、については(上位) 役員になるほど「スポーツ・趣味」(県郡団役員36.7%，単位団役員48.4%，一般団員51.6%)がおち、「生きがいを感じることはない」(県郡団役員0.0%，単位団役員8.6%，一般団員10.3%)がおちる。そして「団体・サークル活動」(県郡団役員53.3%，単位団役員41.9%，一般団員11.9%)、「仕事に打ち込む時」(県郡団役員50.0%，単位団役員24.7%，一般団員34.1%)，さらに「恋人とい

表3-1 年齢・団歴と青年団での役職とのクロス集計

	団での役職						計
	県団役員	郡団役員	単 位 団 長	単 位 団 其 他 の 役 員	一般団員	そ の 他	
年 齢							
18歳～21歳	0 .0%	6 28.6%	6 22.2%	15 21.7%	44 35.5%	1 10.0%	72 27.4%
22歳～25歳	5 41.7%	10 47.6%	12 44.4%	37 53.6%	49 39.5%	4 40.0%	117 44.5%
26歳～29歳	4 33.3%	5 23.8%	8 29.6%	14 20.3%	23 18.5%	4 40.0%	58 22.1%
30歳以上	3 25.0%	0 .0%	1 3.7%	3 4.3%	8 6.5%	1 10.0%	16 6.1%
団 歴							
1年未満	0 .0%	1 4.8%	1 3.7%	2 2.9%	41 35.7%	2 25.0%	47 18.7%
1-3年未満	0 .0%	6 28.6%	8 29.6%	35 50.7%	31 27.0%	5 62.5%	85 33.7%
3-5年未満	2 16.7%	10 47.6%	10 37.0%	16 23.2%	16 13.9%	1 12.5%	55 21.8%
5-7年未満	3 25.0%	0 .0%	7 25.9%	6 8.7%	13 11.3%	0 .0%	29 11.5%
7年以上	7 58.3%	4 19.0%	1 3.7%	10 14.5%	14 12.2%	0 .0%	36 14.3%
計	12 100.0%	21 100.0%	27 100.0%	69 100.0%	115 100.0%	8 100.0%	252 100.0%

表3-2 団歴と性別とのクロス集計

団歴	性 別		計
	男	女	
1年未満	29 16.7%	18 22.8%	47 18.6%
1-3年未満	48 27.6%	37 46.8%	85 33.6%
3-5年未満	39 22.4%	17 21.5%	56 22.1%
5-7年未満	24 13.8%	5 6.3%	29 11.5%
7年以上	34 19.5%	2 2.5%	36 14.2%
計	174 100.0%	79 100.0%	253 100.0%

表3-3 年齢・団歴と青年団での役職とのクロス集計

定住意識	団での役職			計
	県・郡団役員	単位団役員	一般団員・その他	
ずっと住む	17 53.1%	43 45.7%	45 34.9%	105 41.2%
他の土地で住む	12 37.5%	19 20.2%	42 32.6%	73 28.6%
未確定	3 9.4%	32 34.0%	42 32.6%	77 30.2%

**

表3-4 現在参加している地域活動と青年団での役職とのクロス集計

現在参加している地域活動	団での役職			計
	県・郡団役員	単位団役員	一般団員・その他	
考えていない	1 3.6%	3 3.3%	11 8.8%	15 6.1%
参加するものがない	0 .0%	1 1.1%	7 5.6%	8 3.3%
奉仕・ボランティア活動	7 25.0%	15 16.5%	8 6.4%	30 12.3%
祭りの行事	16 57.1%	33 36.3%	36 28.8%	85 34.8%
消防団	9 32.1%	18 19.8%	10 8.0%	37 15.2%
青年団体活動	27 96.4%	83 91.2%	76 60.8%	186 76.2%
スポーツ関係・運動会	13 46.4%	38 41.8%	57 45.6%	108 44.3%
その他の地域行事	9 32.1%	33 36.3%	15 12.0%	57 23.4%
子ども会活動	0 .0%	4 4.4%	0 .0%	4 1.6%
青少年の育成指導	3 10.7%	7 7.7%	10 8.0%	20 8.2%
その他	4 14.3%	2 2.2%	3 2.4%	9 3.7%

表3-5-1 入団のきっかけと青年団での役職とのクロス集計

入団のきっかけ	団での役職			計
	県・郡団役員	単位団役員	一般団員・その他	
青年団の戸別訪問で	6 21.4%	23 25.6%	16 12.8%	45 18.5%
先輩の誘い・すすめ	13 46.4%	21 23.3%	37 29.6%	71 29.2%
友達の誘い・すすめ	5 17.9%	34 37.8%	55 44.0%	94 38.7%
親からのすすめ	0 .0%	1 1.1%	1 .8%	2 .8%
行政からの働きかけに応じて	0 .0%	1 1.1%	2 1.6%	3 1.2%
ポスター・パンフレットを見て	0 .0%	0 .0%	1 .8%	1 .4%
自発的に	1 3.6%	6 6.7%	4 3.2%	11 4.5%
その他	3 10.7%	4 4.4%	9 7.2%	16 6.6%

る時」(県郡団役員30.0%, 単位団役員21.5%, 一般団員13.5%)が増える。

2) 人生の目標は、(上位)役員になるほど「金持ちになる」(県郡団役員13.3%, 単位団役員12.0%, 一般団員21.9%), 「趣味にいきる」(県郡団役員10.0%, 単位団役員13.0%, 一般団員16.4%), 「人並みの生活」(県郡団役員3.3%, 単位団役員20.7%, 一般団員21.9%)がおち、「職業人としてその道に精通する」(県郡団役員30.0%, 単位団役員17.4%, 一般団員18.0%), 「創造的な仕事をする」(県郡団役員20.0%, 単位団役員6.5%, 一般団員8.6%), 「社会奉仕・ボランティアに力を入れる」(県郡団役員16.7%, 単位団役員7.6%, 一般団員1.6%)などが増える。

〈地域社会について〉

1) 地域に対する定住意識は、(上位)役員になるほど強い。(表3-3)

2) 青年が地域で参加すべき活動及び実際に参加している活動としては、全般的に比率が高い「奉仕・ボランティア」「青年団体活動」の他に、すべき活動として(上位)役員では、「子供会」(22.6%)「青少年育成」(35.5%)などが高くなっている。(表3-4)

3) 青年として期待されていることでは、「政治や社会の革新」(県郡団役員31.0%, 単位団役員14.9%, 一般団員9.9%)が上位役員ほど高くなっている点特徴的である。

4) 今住んでいる地域の課題としては、「高齢者の介護などの問題」(県郡団役員25.9%, 単位団役員38.9%, 一般団員39.7%), 「過疎の問題」(県郡団役員29.6%, 単位団役員34.4%, 一般団員39.7%), 「嫁・婿不足」(県郡団役員18.5%, 単位団役員20.0%, 一般団員23.1%)が(上位)役員ほど低くなり、「農業振興」(県郡団役員29.6%, 単位団役員16.7%, 一般団員16.5%), 「青少年健全育成」(県郡団役員14.8%, 単位団役員7.8%, 一般団員4.1%), 「地域連帯感の欠如」(県郡団役員22.2%, 単位団役員12.2%, 一般団員7.4%)が高くなっている。これは、地域の問題をマスコミ等の一般情報に拠り観念的にとらえるのではなく、地域活動の経験等を経て、より具体的・体験的にとらえているとみえる。また、「人権に関わる問題」(県郡団役員37.0%, 単位団役員18.9%, 一般団員10.7%)については、青年団での同和学習等の積み上げの成果と思われる。

〈青年団活動について〉

1) 入団のきっかけは、友人や先輩の誘い・勧めが多く、男性では「先輩から」「友達から」いずれも30%あまり、女性では、「先輩」(21.8%)よりも「友達」(43.6%)が多い。一方、役職別でみると、(上位)役員ほど「友達」が減り「先輩」が増える。これは、先輩に見込まれて勧誘され役員にされた、といったところか。これらの次には「青年団の戸別訪問」(男性14.4%, 女性26.9%)。それに対し、「自発的に」や「ポスター・パンフにより」は少なく、いずれも男性に6%程度見られるのみである。(表3-5-1~表3-5-2)

2) 入る前の感想では、男性は「あこがれていた」(6.6%), 「楽しそうで早く入りたかった」(12.7%)と女性(それぞれ2.5%, 3.8%)に比べ好意的で意図的である。また「古臭いと思っていた」16.3%も女性(8.9%)に比べ多い。役職別にみると、「古臭い」が県郡団役員に多い(21.4%)。しかし、男女とも全般的に「その存在をあまり知らなかった」「特別に期待していなかった」(合わせて、男性61.4%, 女性73.4%)が多い。この点について、役職との関連は特に認められない。(表3-6-1~表3-6-2)

3) 入団の時、青年団に求めていたものでは、男女とも「少し、あるいは非常にあった」(42.6%)より「あまり、あるいは全くなかった」(57.5%)ものの方が多い。この点についても、役職との関連は認められない。ただし、男性が「非常にあった」と「全くなかった」の両方に分かれるのに対して、女性は「少しあった」とか「あまりなかった」など、どちらともいえない様な回答結果になっている。(表3-7-1~表3-7-2)

4) 求めていたものの内容では、男女とも「友人」や「人間的な成長」が多く、「文化・イベント活動」「スポーツ」などが続く。性差としては、「異性」「地域活動」が男性に多く、「違う世界」「ボランティア活動」が女性に多いのが少し特徴である。

役職との関連性をみれば、「人間的な成長」や「異性」が役員になるほど多い。(表3-8-1~表3-8-2)

5) 青年団活動で良かったと思うこと(4つまで○)については、「友人ができた」(男性66.0%, 女性76.9%), 「多くの人を知ることができた」(男性57.2%, 女性69.2%), 「人間的成長」(男女とも50%程度)が多く、続いて「地域や社会のことが分かる」(男女とも30%余り)となっている。若干男性に多いのは、「リーダーシップが身についた」12.6%(女性1.3%)や「異性を知る機会が増えた」16.4%(女性7.7%)である。役職との関連で

表3-5-2 性別にみた入団のきっかけ

入団のきっかけ	性別		計
	男	女	
青年団の戸別訪問で	24 14.4%	21 26.9%	45 18.4%
先輩の誘い・すすめ	55 32.9%	17 21.8%	72 29.4%
友達の誘い・すすめ	61 36.5%	34 43.6%	95 38.8%
親からのすすめ	2 1.2%	0 .0%	2 .8%
行政からの働きかけに応じて	3 1.8%	0 .0%	3 1.2%
ポスター・パンフレットを見て	1 .6%	0 .0%	1 .4%
自発的に	11 6.6%	0 .0%	11 4.5%
その他	10 6.0%	6 7.7%	16 6.5%

**

表3-6-1 入団する前の感想と青年団での役職とのクロス集計

入る前の感想	団での役職			計
	県・郡団役員	単位団役員	一般団員・その他	
あこがれていた	1 3.6%	7 7.8%	5 4.0%	13 5.3%
楽しそうで早く入りたかった	2 7.1%	9 10.0%	13 10.4%	24 9.9%
古くさいと思っていた	6 21.4%	11 12.2%	17 13.6%	34 14.0%
特別に期待していなかった	10 35.7%	19 21.1%	46 36.8%	75 30.9%
青年団の存在をあまり知らなかった	8 28.6%	38 42.2%	38 30.4%	84 34.6%
その他	1 3.6%	6 6.7%	6 4.8%	13 5.3%

表3-6-2 性別にみた入団する前の感想

入る前の感想	性別		計
	男	女	
あこがれていた	11 6.6%	2 2.5%	13 5.3%
楽しそうで早く入りたかった	21 12.7%	3 3.8%	24 9.8%
古くさいと思っていた	27 16.3%	7 8.9%	34 13.9%
特別に期待していなかった	50 30.1%	24 30.4%	74 30.2%
青年団の存在をあまり知らなかった	52 31.3%	34 43.0%	86 35.1%
その他	5 3.0%	9 11.4%	14 5.7%

**

表3-7-1 青年団に求めるものの有無と青年団での役職とのクロス集計

青年団に求めるもの	団での役職			計
	県・郡団役員	単位団役員	一般団員・その他	
非常にあった	3 10.7%	14 16.1%	10 8.1%	27 11.3%
少しはあった	7 25.0%	28 32.2%	39 31.5%	74 31.0%
あまりなかった	15 53.6%	30 34.5%	51 41.1%	96 40.2%
全くなかった	3 10.7%	15 17.2%	24 19.4%	42 17.6%

表3-7-2 性別にみた青年団に求めるものの有無

青年団に求めるもの	性別		計
	男	女	
非常にあった	24 14.7%	4 5.1%	28 11.6%
少しはあった	42 25.8%	33 41.8%	75 31.0%
あまりなかった	63 38.7%	34 43.0%	97 40.1%
全くなかった	34 20.9%	8 10.1%	42 17.4%

**

表3-8-1 青年団に求めている内容と青年団での役職とのクロス集計

青年団に求めている内容	団での役職			計
	県・郡団役員	単位団役員	一般団員・その他	
スポーツ	3 33.3%	10 22.7%	24 50.0%	37 36.6%
文化・イベント活動	1 11.1%	18 40.9%	13 27.1%	32 31.7%
友人	3 33.3%	25 56.8%	18 37.5%	46 45.5%
人間的な成長	6 66.7%	23 52.3%	16 33.3%	45 44.6%
異性	4 44.4%	12 27.3%	4 8.3%	20 19.8%
ボランティア活動	0 .0%	7 15.9%	4 8.3%	11 10.9%
地域活動	3 33.3%	6 13.6%	15 31.3%	24 23.8%
違う世界	1 11.1%	9 20.5%	8 16.7%	18 17.8%
その他	0 .0%	1 2.3%	0 .0%	1 1.0%

表3-8-2 性別にみた青年団に求めている内容

青年団に求めている内容	性別		計
	男	女	
スポーツ	25 37.9%	12 33.3%	37 36.3%
文化・イベント活動	16 24.2%	15 41.7%	31 30.4%
友人	28 42.4%	18 50.0%	46 45.1%
人間的な成長	26 39.4%	19 52.8%	45 44.1%
異性	17 25.8%	4 11.1%	21 20.6%
ボランティア活動	5 7.6%	6 16.7%	11 10.8%
地域活動	18 27.3%	6 16.7%	24 23.5%
違う世界	10 15.2%	9 25.0%	19 18.6%
その他	1 1.5%	0 .0%	1 1.0%

表3-9 青年団の問題点と青年団での役職とのクロス集計

青年団の問題点	団での役職			計
	県・郡団役員	単位団役員	一般団員・その他	
時間にルーズ	22 71.0%	69 73.4%	60 48.8%	151 60.9%
活動資金が不足	6 19.4%	30 31.9%	27 22.0%	63 25.4%
団員数の減少	14 45.2%	57 60.6%	57 46.3%	128 51.6%
気軽に集まる場所がない	5 16.1%	14 14.9%	6 4.9%	25 10.1%
団員の意識が低い	10 32.3%	32 34.0%	28 22.8%	70 28.2%
リーダーが不足	13 41.9%	27 28.7%	19 15.4%	59 23.8%
団としてのまとまりが弱い	6 19.4%	23 24.5%	26 21.1%	55 22.2%
女性が少ない	17 54.8%	35 37.2%	46 37.4%	98 39.5%
地域の理解が得られない	3 9.7%	6 6.4%	10 8.1%	19 7.7%
どういう活動をしていいかわからない	2 6.5%	7 7.4%	22 17.9%	31 12.5%
青年団の人間関係	1 3.2%	5 5.3%	5 4.1%	11 4.4%
その他	0 .0%	4 4.3%	6 4.9%	10 4.0%

表3-10 青年団が今後力を入れるべき活動と青年団での役職とのクロス集計

今後力を入れるべき活動	団での役職			計
	県・郡団役員	単位団役員	一般団員・その他	
地域の活性化に関わる活動	18 60.0%	51 53.7%	49 40.8%	118 48.2%
音楽、演劇などの文化的な活動	5 16.7%	7 7.4%	7 5.8%	19 7.8%
スポーツ関係の活動	2 6.7%	20 21.1%	43 35.8%	65 26.5%
各団員の趣味や特技、個性を生かした活動	13 43.3%	30 31.6%	26 21.7%	69 28.2%
地域の行事への参加	6 20.0%	32 33.7%	29 24.2%	67 27.3%
学習・研修	9 30.0%	22 23.2%	13 10.8%	44 18.0%
他県の青年団との交流	8 26.7%	15 15.8%	38 31.7%	61 24.9%
青年団以外のグループ・団体との交流	10 33.3%	36 37.9%	28 23.3%	74 30.2%
平和活動などの社会的な活動	4 13.3%	7 7.4%	4 3.3%	15 6.1%
青年団独自のミニコミ紙の編集と宣伝	5 16.7%	16 16.8%	10 8.3%	31 12.7%
団員が参加しやすいイベント・企画	10 33.3%	56 58.9%	61 50.8%	127 51.8%
ボランティア活動	4 13.3%	12 12.6%	18 15.0%	34 13.9%
その他	1 3.3%	4 4.2%	3 2.5%	8 3.3%

は、(上位)役員になるほど全般的に良かったと思う点が多いが、特に「人間的成長」(県・郡団役員85.7%、単位団役員52.3%、一般団員41.2%)、「地域や社会のことが分かる」(県・郡団役員50.0%、単位団役員31.8%、一般団員26.1%)、「リーダーシップが身についた」(県・郡団役員28.6%、単位団役員13.6%、一般団員0.8%)などはその傾向がはっきりしている。

6) 一方、個人的なマイナス面(4つまで○)は性差があり、男性は「自由時間の減少」59.0%、「団員数が少なく向上していかない」29.8%、「自分のしたいことが十分できない」22.4%、「特にない」21.7%、「家族との時間の減少」21.1%の順で、女性は「団員数が少なく向上していかない」25.3%、「特にない」25.3%、「自分のしたいことが十分できない」19.0%の順である。女性に比較的多いのは、「活動の内容がつまらない」16.5%(男性7.5%)、「家族の理解が得られない」15.2%(男性4.3%)である。

7) 青年団での問題点は、男性「時間にルーズ」64.5%、「団員数の減少」50.6%、「女性が少ない」41.3%、「活動資金が不足」31.4%、「団員の意識が低い」30.2%、「リーダーが不足」27.3%の順である。女性は「時間にルーズ」55.8%、「団員数の減少」54.5%、「女性が少ない」

37.7%、「団としてのまとまりが弱い」31.2%、「団員の意識が低い」23.4%の順である。

これは役職別にみると、意識の差がある。例えば「時間にルーズ」「リーダーが不足」「女性が少ない」などについては、役職が上位になるほど指摘する者が多い、一方、一般団員の方では、17.9%と多くはないが「どういう活動をしたらいいか分からない」とする者もある。また、単位団役員において「団員数の減少」「活動資金が不足」「団員の意識が低い」など全般的に問題を多く指摘しているが、日々の多様な活動に追われながら組織の弱体傾向に悩んでいる姿がうかがえる。(表3-9)

8) 参加したことがある取組みは、「郡市青年大会」63.2%、「単位団での例会」62.7%、「単位団でのスポーツ活動」57.4%、「単位団でのイベント企画」「単位団でのレジャー企画」それぞれ55%程度、「鳥取県青年大会」50.5%。団員数の違いも関係しようが、全般的に男性の方が幅広く参加している。役職との関連では、当然、団歴も長くリーダーの立場である上部の役員ほど幅広く参加している。

9) 参加して良かったというものは、「単位団でのレジャー企画」29.3%、「全国青年大会」27.1%、「単位団でのイベント企画」24.3%、「鳥取県青年大会」「単位団

でのスポーツ活動」それぞれ20%。役職別にみると、参加経験の関係もあろうが(上位)役員ほど、県や全国レベルのものの回答が増える。

参加した者のうち良かったと回答したものの割合は、「全国青年大会」72%、「全国青年問題研究集会」50%、「国内研修等の派遣事業」48%、「全国女子青年集会」39%、「単位団でのレジャー企画」36%、「単位団でのイベント企画」30%、「鳥取県青年大会」27%、「郡市青年大会」26%、「郡市青年問題研究集会」25%の順となる。

10) 団活動への満足度は、十分満足が13%、少し満足が50.2% (合わせて63.2%が満足)。一方、少し不満が28%、全く不満が8.8% (合わせて36.8%) である。

11) 団員増に必要な事は、男性は「広報・PR活動」56.4%、「スポーツ活動中心などの気軽に取り組める行事」41.3%、「女子団員増」38.4%、「企画力を養い行事内容を充実」37.2%の順で、女性は「広報・PR活動」70.9%、「企画力を養い行事内容を充実」41.8%、「スポーツ活動中心などの気軽に取り組める行事」31.6%、「各自の個性を生かせる幅広い活動を日頃から実施」29.1%の順、「青年団の名前を新しく変える」も22.8%ある。

12) 今後力を入れるべき活動は、「参加しやすいイベント・企画」51.2%、「地域の活性化」47.6%、「団以外のグループとの交流」30.2%、「各団員の趣味・個性を生かした活動」28.2%の順である。女性に多いのは「参加しやすいイベント・企画」61.0% (男性46.8%)、「団以外のグループとの交流」37.7% (男性26.9%) である。役職別でみると、(上位)役員では、「参加しやすいイベント・企画」「スポーツ関係」などがおちて、「地域の活性化」「各団員の趣味・個性を生かした活動」「学習・研修」「社会活動」などが増える。(表3-10)

〈小括〉

近年、市町村の青年団役員のなかには、「職場の事情等により参加しにくい者に無理に団員になってもらっても限界があるし、団費をとるのも気の毒だ」「やりたくない者に参加を勧めても、無駄だろう」という発想が見られる様になる。団員は少なくとも親睦を図ってしっかりとした事業に取り組むべきだ、というのだろうか。この点については、団員意識調査のなかで「青年団活動でのマイナス面」として「自分のしたいことが十分できない」「参加すると束縛される」と答えている者がかなり多い点や、一般に最近の若者の傾向として友人とのつきあひ方が機能的であるといわれる点などから、青年団のように住む地域を同じくする者が入団し沢山の活動に取り組

む団体は敬遠される、という裏付けも成り立つだろう。しかし総じて現在の青年団員自身、入団前はとくに青年団に対して大きな期待をせず、内容もよく知らず、ほとんどが口コミで誘われて、活動に取り組んできている。その結果として、一般青年が青年団体・グループに多く参加することを期待し、「青年団で良かったこと」には、人間的成長や地域社会のことが良く分かるようになったことをあげているのである。青年団組織は一部の者のために存在してきた訳ではないから、団員の勧誘は幅広くていねいにやるべきだろう。

現在は青年をはじめ地域住民誰もが、生活を広域化しており、職種も多様になったので、青年団においても「地域性」を強調するには無理がある、という意見もあるが、団員は「今後取り組むべき活動」として「地域活性化に関わる活動」を47.6%があげるとともに「団員の趣味・特技・個性をいかした活動」(28.2%)を無理なくすすめるようという、気づきをしているように思う。ただし、「団員増のために」男女とも「広報・PR」を多くあげながら、「各戸訪問」をあまり重要視していないのは、少し問題であるように思う。PRというものは、基本的に口コミ勧誘を助けるものとして理解すべきではないか。

最後に、「青年団での問題点」として、特に役員が「時間にルーズ」や「団員の意識が低い」「リーダー不足」「まとまりの弱さ」をあげているが、一方の一般団員では「どのような活動をしたらいいのか分からない」と18%近くの者があげている状況を見ると、青年団内部での話し合いの不足、たまり場の軽視があるようにも感じる。

(以上、前田が主に執筆。)

第4章 まとめと今後の課題

第2章では、青年を「青年団員」「グループ経験者」「グループ未経験者」にグルーピングし、それぞれの特徴と地域意識との関連について考察した。その内容は、〈小括〉に詳しいが、青年団員とグループ経験者に共通して、「はじめに」で述べた「参加」経験的側面(地域活動経験、充実体験など)における経験の豊富さと、「評価」的側面(興味・関心、余暇活用のスタイル、社会観・人生観、地域意識など)における積極的側面とが、ある程度相関関係を持って示されているように思える。このことは、グループ未経験者の傾向と照らし合わせた場合顕著であった。

上記の点を敷衍して述べれば、「参加」経験が様々な体験と「学習」機会とを提供し、そのことが「消費」社会

における自らの生き方を対象化する契機となり、「評価」的側面の深まりにつながり、「自立」への大きな足がかりとなるという一つのプロセスが描けることである。

しかし、考慮されなければならない点は、その「参加」経験の内容・質の問題である。例えば、青少年の自主性や自治がどの程度保障された活動であるのか、活動目的・内容が明確で適切か、などいくつかのポイントが考えられるが、こうした点も踏まえないと、地域活動経験や集団活動経験が将来の青年のライフコースにプラスの影響を与えるという一般化は危険ですらある。この問題を解くためには、別の質問紙による調査かグループ活動経験者と青年団員を調査対象とした追跡調査が必要となる。

次に第3章では、青年団員の青年団活動に対する意識を男女別・役職別に分析したものである。その中で特に顕著なことは、入団時には「その存在をあまり知らなかった」「特に期待していなかった」大半の青年達、そして青年団への期待もそれほどでもなかった青年達、彼らが、青年団の中で様々な活動に参加する過程で、地域への問題意識や社会観が養われていき、団活動への満足度も63%に達している。こうした変化というものには正確に見ておかないといけないであろう。

また、青年団だけが「青年の生活を高める組織」であるとは言えないことは当然であるが、地域に触れにくくなった現在の青少年の実態をふまえながら、成育歴と成長後の地域活動への参加状況等も注意深く研究すれば、青年団の今日的意義はむしろ拡大していくのではないかと

と思われる。

最後に、青年団組織の今日的な在り方として

- (1) 地域活動の青年リーダー的存在であり、たとえ人数は少なくとも、積極的なものが参加し地域活動を担っていくことが、青年団の存在意義であるとする考え方
- (2) 青年団はその地域に住むすべての青年にとっての地域活動への言わば登竜門であり、生活（時間）や意識の多様化により、加入意識の稀薄さがあるとしても、一人でも多くの青年が入団することが基本であるとする考え方、がある。

いずれも青年団の組織論からは正論であろうと思うが、あえて言えば、後者のとらえ方を再認識すべきであると考える。たとえば「過疎を逆手にとって、残った者みんなが知恵と汗を出しながら、まちを活性化していこう」という発想にたつなら、同じ地域に住んでいる青年に対して、何等かの形で青年団に係わらせていく、そういう気迫を青年団自身が身に付けて行くことが、まず今必要である。

（以上、生田、前田の共同執筆。）

〈註〉

1. 生田周二「地域活性化と青年の役割に関する予備的考察—『鳥取県青年団員の意識動向に関する予備調査』から—」『鳥取大学教育学部研究報告：教育科学』第34巻第2号 1992年12月を参照のこと。
2. 松原治郎『日本青年の意識構造』1974年 98頁。

Abstract

This paper analyzes the degree of the awareness of local community felt by the youth and the members of the youth union in Tottori prefecture, which is an important part of 'the Study on the Role of Youth (and young adults) to Vitalize their Local Community'.

Analyzing the data, I grouped the youth polled into three categories by their experience of group activities: 'being a member of youth union', 'having an experience in any activity group' and 'having no experience'. I investigated the correlation of three categories with school experience, experience of local community activities, view of life and social life, and consciousness of local community, etc.

And I investigated the consciousness of the youth union activities among the members of the youth union, according to their sex and to their rank in the union.

The main results are as follows:

1. the correlation of three categories with school experience, experience of local community activities is high.
2. the youth union has an important role for raising their consciousness of local community and for developing their view of life and social life.